

パッションフルーツ苗の 扱い方と栽培管理のポイントはココ！

当店は、年間を通じてパッション苗を生産直売しており、越冬株(2年生株)と新苗(1年生若苗株)があります！

▼ 越冬株(2年生株)とは...

前年から育成し春に備え切り戻している株で極端に小振りだったり...

寒さによる斑点や下葉から落葉気味の株で見かけが悪かったり...

根が少なくなり新根が始まる前の株、低温で肥料の効果が出ず黄色っぽい株だったり、新苗の小振りで根が満身に張っていない株もありますが、暖くなる春先から気温の上昇と共に勢い良く元気な新芽や新根を伸ばしますので、越冬株を是非ご活用下さい。



▼ 寒い間はポットそのままの越冬が無難ですが、水切れを繰り返したり新芽が伸びるようなやや温かい環境下でしたら直径10~15cm程度の小鉢に仮植えしても構いません。

その後の正式な植え込みのタイミングは、霜の降りない栽培環境を前提に新芽の伸び方をじっくり観察頂き適切にご判断下さい。植えたい場所に時折置いて様子を見る事も大切！

ただ、霜が心配な場合でも...日中暖かいときだけ屋外で日光浴させて夜間取り込むことで初期生育を促進させることにつながり...初夏の花数を大幅に増やすことにも繋がります。

▼ 日差しが弱い冬期に室内~半日陰で管理していたパッション苗を春らしさを感じて...

いきなり4月中旬頃からの強烈な日光下に出しますと短時間でも葉っぱが白~茶色っぽく「葉焼け」を起こす事もありますので半日陰から徐々に1週間程度かけて日差しに馴らすようにしましょう。薄葉⇒厚葉へ！あと、朝晩の冷え込みや直射日光に馴れなくて新芽が萎れる場合もありますので何でも徐々にが基本です！

▼ お客様が経験上、取り扱うのには小さい苗！...と思われましたら...無理してすぐに本植えせず、4月下旬頃より気温の上昇と共に生育ペースが上がりますので今しばらくポットのまま日光浴させて下さい。日中にポカポカ陽気が続けば日々新芽が伸び続けます。

▼ よくある失敗例 ⇒ 後々の植替えがおっくうだから...といきなり大きな鉢に植えると危険！？

小苗を不釣り合いなくらい用土量が多くて大きい鉢に植え込みすると、水分が停滞しやすい鉢中央内部へ正常な根張りが出来ず、過湿を招き生育不良を起こす場合がありますのでご注意下さい。最終的に大きなコンテナで栽培されたい場合、しばらく小鉢で大きく育成させてから目的の鉢やプランターへの定植をご検討ください。

▼ 当店の苗(7.5cmポット)をしばらく小鉢で育成される場合...


植替え後1週間程で新しい用土に新しい根が伸び、新芽も徐々に伸び始めますので、10日程経過しても生育が悪い場合は仮植えに失敗している可能性があります。乾きにくい状況が続けば危険です。用土の見直しも！通常は5号鉢程度での育成がベストですが、用土の種類や植替え作業等のテクニックに不安をお持ちでしたらやや乾きやすくなりますが4号(12cm)、更に小さめの3号(10.5cm)で育成する事で失敗は少なくなります。あと、根がびっしり密集していれば根鉢を少し崩して植え、根が少ない場合は崩さないようそっと植えます！

▼ パッションの開花と根鉢の関係について...

初夏と秋に用土内が適度な根詰まり加減で、やや乾きやすい状態であれば、より開花しやすい傾向にありますので、株の様子と水やり頻度やその後の乾き方のペース等で根の状態を把握するよう心がけてください。

▼ 「Gs 酵素+ハイポネックス液肥」混合液を与えると葉の色ツヤが濃くなり花着きや果実の肥大が促進されより美味しくなりますので是非お試しください！「菌の力」の併用でパッションフルーツの株を労り長持ち！

★真夏の涼しいグリーンカーテン作り&開花結実を応援！

『パッション栽培Q&A こんなときどうする?』こちら 

ご不明な点は、遠慮なくお尋ね下さい！

0996-67-0708

